

20m07HO提出課題例

授業をデザインすること

教育方法論 m 第 1 回テーマ「授業をデザインすること」2 班

(1) 「新しい時代の教育方法」から

全体の要点●授業をデザインすることにおいて重要となることは対象となるクラスの生徒の実態に基づいて何をどう教えるかを決定することである。そして教材の持っている本質、教師の願っているもの、子どもたちの思考・感じ方・考え方の 3 つが一つの授業において成り立つよう心掛ける。

授業マニュアルをなぞるだけの授業では不十分である。

教材を教えるのではなく、教材で教えることを心掛ける。

ポイント 1) 生徒が教材を通し疑問や気づきを得られるような授業の組み立てを目指す。

2) 授業時々においての生徒のレスポンスに合わせ柔軟に指導内容の変更を行うことが好ましい。

3) 教材で教える、つまり教材が伝えようとしている知識をくみ取りそれを軸として授業を組み立てる。

4) 国語などでは教材を教える授業になりがちである。つまりその教材を問題として扱いそれを攻略するための知識以外身につかない。

(2) 「17 中学校学習指導要領解説」「18 高等学校学習指導要領解説」等から

全体の要点●学校には身体障がい、知的障がい、また帰国子女や外国籍の子どもなど多種多様な生徒が在籍しておりその生徒一人一人の成長に繋がる授業を心掛けなければならない。

ポイント 1) 生徒一人一人の特性を把握・理解することが重要となる。

2) 特別支援の教員との連携を視野に入れる。

3) 日本語を話せない生徒への対処として英語の習得を行う

(3) その他のネット資料から長所・短所

全体の要点●授業のマニュアルとして「深い学び」東洋館出版を挙げる。この書籍にはより生徒に深くそして充実した思考活動を行わせるための教育方法や授業に対する考え方などが著者の経験談を踏まえ述べてある。

ポイント 1) 著者が授業を行っていた学校は教育大学の付属校であり生徒の学力平均が公立の学校と比べ高い傾向にある

2) 上記学力差よりその付属校で効果の出た授業法が他の公立の学校で効果を示すとは限らない

3) ICT などの設備面で公立の学校と比べ明らかな差がある

4) 学校によって生徒、環境などの条件が千差万別であり、この授業法が正しいと言い切れるものを作ることは困難である。

(4) 自分の意見

全体の要点●クラスごとに生徒の性質や環境が異なるため教師用指導書や授業マニュアルが参考にならない場面が多々あると思われる。そのため授業を組み立てる教員はクラスや生徒の状態を観察し適切な進度、そして生徒が取り組みやすいレベル設定を心掛け、また授業中であつても生徒の反応次第で指導内容に変化を加えられるような柔軟な立ち回りが必要である。

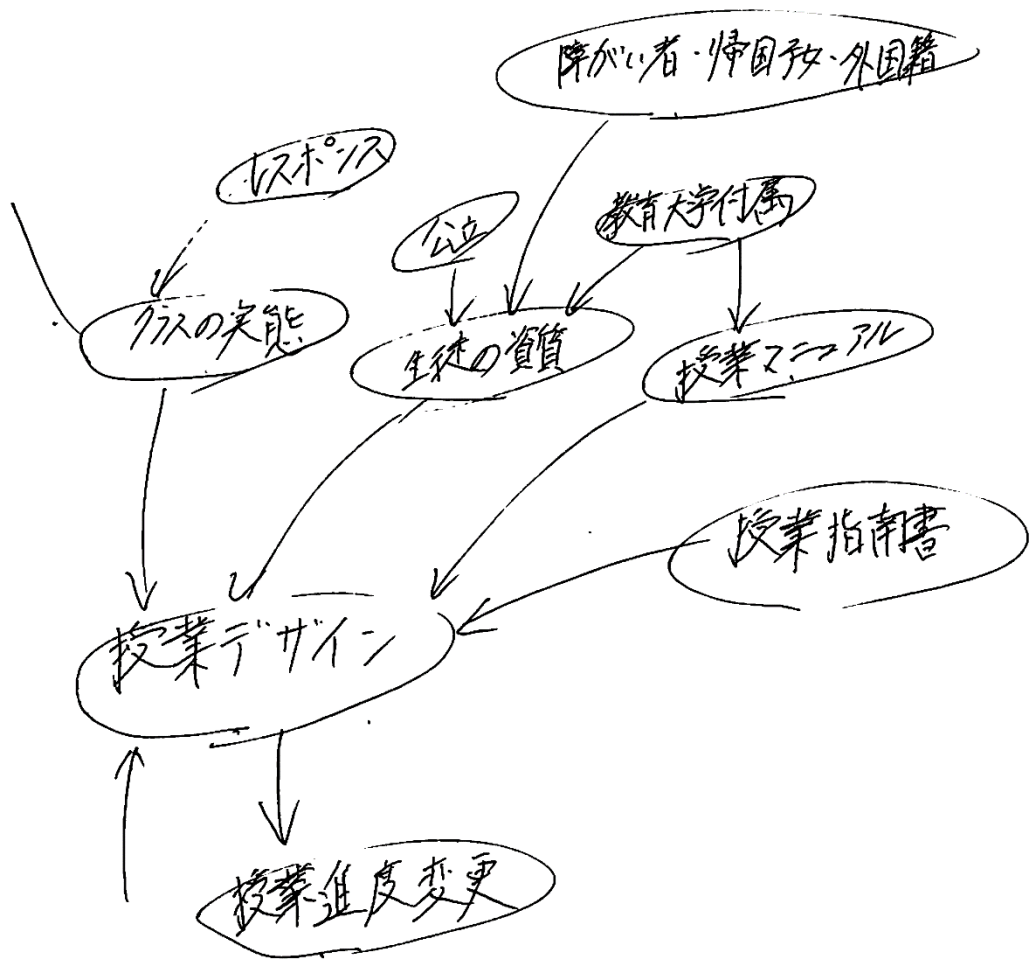
ポイント 1) クラス、生徒の状態は様々

2) クラス、生徒の観察が必要

3) 生徒の反応に気を配る

(5) 出典(文献名、url 等)

- (1) 文部科学省(2017). 「中学校学習指導要領解説」. pp.1-6.
- (2) 文部科学省(2018). 「高等学校学習指導要領解説」. pp.1-6.
- (3) 「深い学び」東洋館出版



教科内容と子どもの学び

教育方法論 m 第 7 回

テーマ「教科内容とこどもの学び」

3 班

(1) 「新しい時代の教育方法」から

全体の要点●

価値観の変化などの影響で教科内容論を見直す必要性があり、今までの教科内容的アプローチと社会文化的アプローチの二元論の克服を目指さなくてはならないが、そのためには教師の高い指導力や深い知識が重要である。

- 1) 科学技術信仰が揺らぎ、教科内容の科学化・系統化という論理では不十分になった。
- 2) 階段型カリキュラムから登山型カリキュラムへの変換ではなく統合を目指すべきである。
- 3) 質の高い学びには、教師の教材に対する深い学問的知識が不可欠。

(2) 「18 高等学校学習指導要領解説」から

全体の要点●

教科・科目等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識の関連付けや情報の精査、問題の発見とその解決策の考察等ができるように学習の充実を図らなくてはならない。

- 1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- 2) コンピュータ等や教材・教具の活用
- 3) 見通しを立てたり、振り返ったりする学習指導
- 4) 体験活動

(3) その他のネット資料から長所・短所

全体の要点●

技術革新が急速に進み、予測困難になるこれからの時代に必要なのは課題発見能力、自学自習能力、自己判断能力等であり、「生きる力」を育むためには教育の進化が必要である。

- 1) 求められる能力の変化
- 2) 生きる力の育成
- 3) どのように学ぶのかも重要

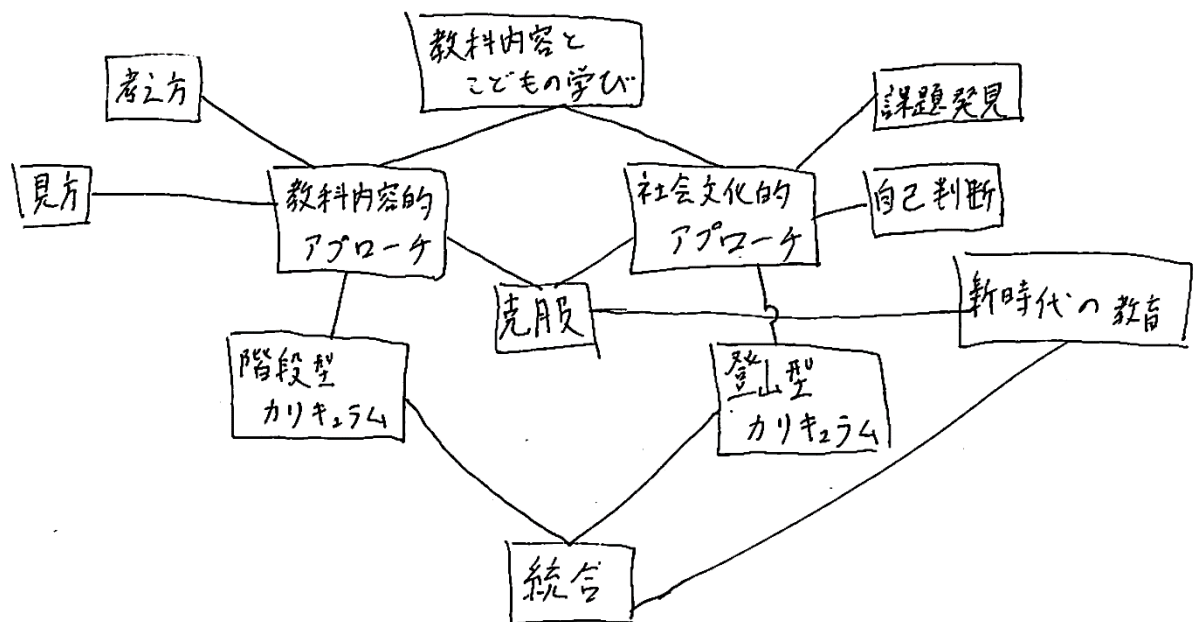
(4) 自分の意見

全体の要点●

今までの社会では知識を詰め込んだ人間が必要だったのかもしれないが、時代が変わるにつれて必要な能力が変わった以上、それに合わせて教育の内容が変わるのは必然である。

(5) 出典(文献名、url 等)

- (1) 文部科学省(2018). 「高等学校学習指導要領解説」. pp.117-128.
- (2) <https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201903/2.html>



対話的・共同的な学びあいのために

教育方法論 m 第 7 回

テーマ「対話的・協同的な学びあいために」1 班

(1) 「新しい時代の教育方法」から

全体の要点●

自ら考えること、意見することが重要であり、さまざまな体験の中で培った知識や技術をいかに自分の物にできるかが大切である。

ポイント

- 1) 「学び」と「勉強」別の物であり、前者は子供が主体となつてする活動で後者は大人に子供が強いられる活動。どうしても「勉強」の方に陥りがちだが、学校では前者を行うべき。
- 2) 教師と生徒の考え方のずれを無視するのではなく、そこを重点的に掘り下げることで対話が起これ両者ともに理解が深まる。
- 3) 生徒が考える答えと教師が求めている答えのずれが授業を活かす鍵になっており、そこから対話的・協同的な学びあいにつなげる。教師はいかにそのずれに気づけるかが重要になってくる。
- 4) 「アプロプリエーション」(子供たちが言葉(文化的道具)を分有しながら利用することで学びを深めていくこと)という概念が必要でこれはただ他者の意見を引用するだけになってしまうがそうではなく、いかに他者の意見を自分の中で読み解き、対話に発展させられるかが重要。

(2) 「18 高等学校学習指導要領解説」等から

全体の要点●

言語環境の整備と言語活動の充実を図るため、国語科を中心とし生徒が意見するタイミングを増やす。

ポイント

- 1) 生徒の言語活動(対話など)を充実させるためには生徒を取り巻く環境が非常に重要で、そういった環境を増やす一例としてまずは匿名で学校の仕組みなどに意見できる目安箱のような物を設置することが挙げられる。
- 2) 社会的な見方、考え方を意識させるため、現実社会で起きている課題などに対して自分の意見を持ちそれを交流する場を設けたりする。
- 3) 思考力・判断力・表現力を育成するために、数理的表現を用いて論理的表現したり、解釈したりして互いにそれを伝え合う機会を設けるべき。
- 4) コミュニケーションをスムーズにするために話すことを順序立てた概念図などを書くことも言語活動の充実につながる。

(3) その他のネット資料から長所・短所

全体の要点●

アクティブラーニングの活動を通して、本当に必要な能力は何なのか確認する。

ポイント

- 1) アクティブラーニング(自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協同的に学ぶこと)を通して教師と生徒が互いに知識を伝達し合い、より深い学びにつなげる。
- 2) 対話的学びの解釈をはっきりとさせ、それに応じた学習をする。
- 3) 対話的とは、会議や議論のようなただ意見をぶつけ合うのではなく、言葉の意味を通して新たに考えられる可能性や解釈をまとめること。したがって対話とは自分と他者ではなく、自分だけでも可能になる。
- 4) 協同的とは、分からないことを他者に伝えそのモヤモヤから考えを深めていくこと。そのモヤモヤを糧として相互に意見を出し合い、最終的な答えをまとめ上げる。

(4) 自分の意見

全体の要点●

自分が主体となり対話的・協同的な学習を進めることが大切であり、少しでも自分と意見がずれていたり疑問に思ったりしたことがあれば、それを発言すべき。そうすることでそこからまた考えることが始まり、問題解決につながることもあれば、新たな考えを生み出すきっかけになり得ることがある。

ポイント

- 1) 教師の立場としてできることは、それを見守ることではなく積極的に発言し、話し合いの大まかな道筋を作ってあげること。
- 2) 対話、協同の意味をしっかりと理解してただの意見交流にならないようにする。
- 3) すべての意見に対して絶対に否定から入らず、どこか他の意見とつながる所を探しだし、その生徒が何を伝えたかったかを教師側からも生徒側からも考えるべき。
- 4) 対話的・協同的に学び合うためには自分の意見を言う前に他者の意見を聞き、元々の自分の意見を言わずに変えてしまうような半端なことはせず、自分の意見に責任を持っておくことが必要。

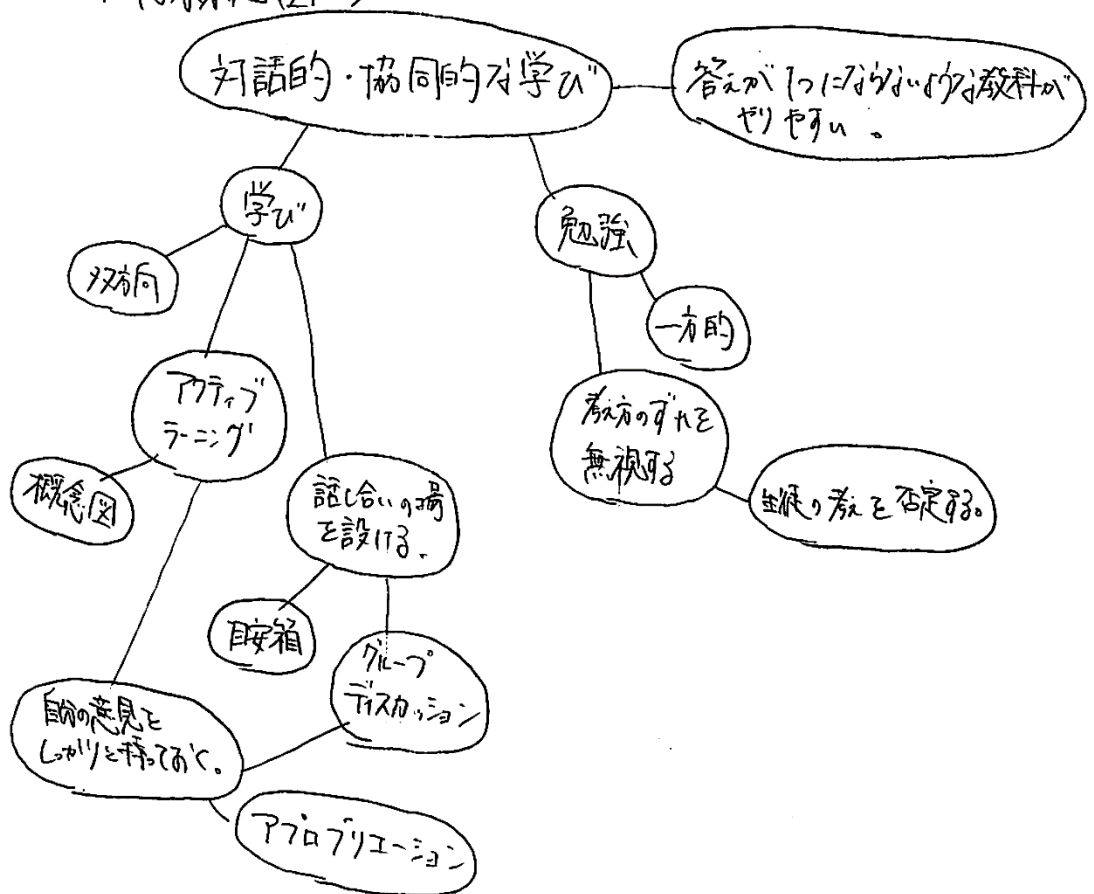
(5) 出典(文献名、url 等)

(1) 文部科学省(2018). 「高等学校学習指導要領解説」. pp.117-123.

(2) https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2017/10/03/1395703_02.pdf

「協同の理念に基づいたアクティブラーニング型授業作りの方法」

<概念系統図>



ICT活用例

ICT 活用例

1. 単 元

2. テーマ

「生徒も教師も使いやすい ICT」

3. ICT 活用のねらい

- ・機械が苦手な人でも使えるもの
- ・拡大・縮小が簡単にできる。またすぐに書き込める。
- ・生徒のタブレットとも共通

4. ICT 活用例

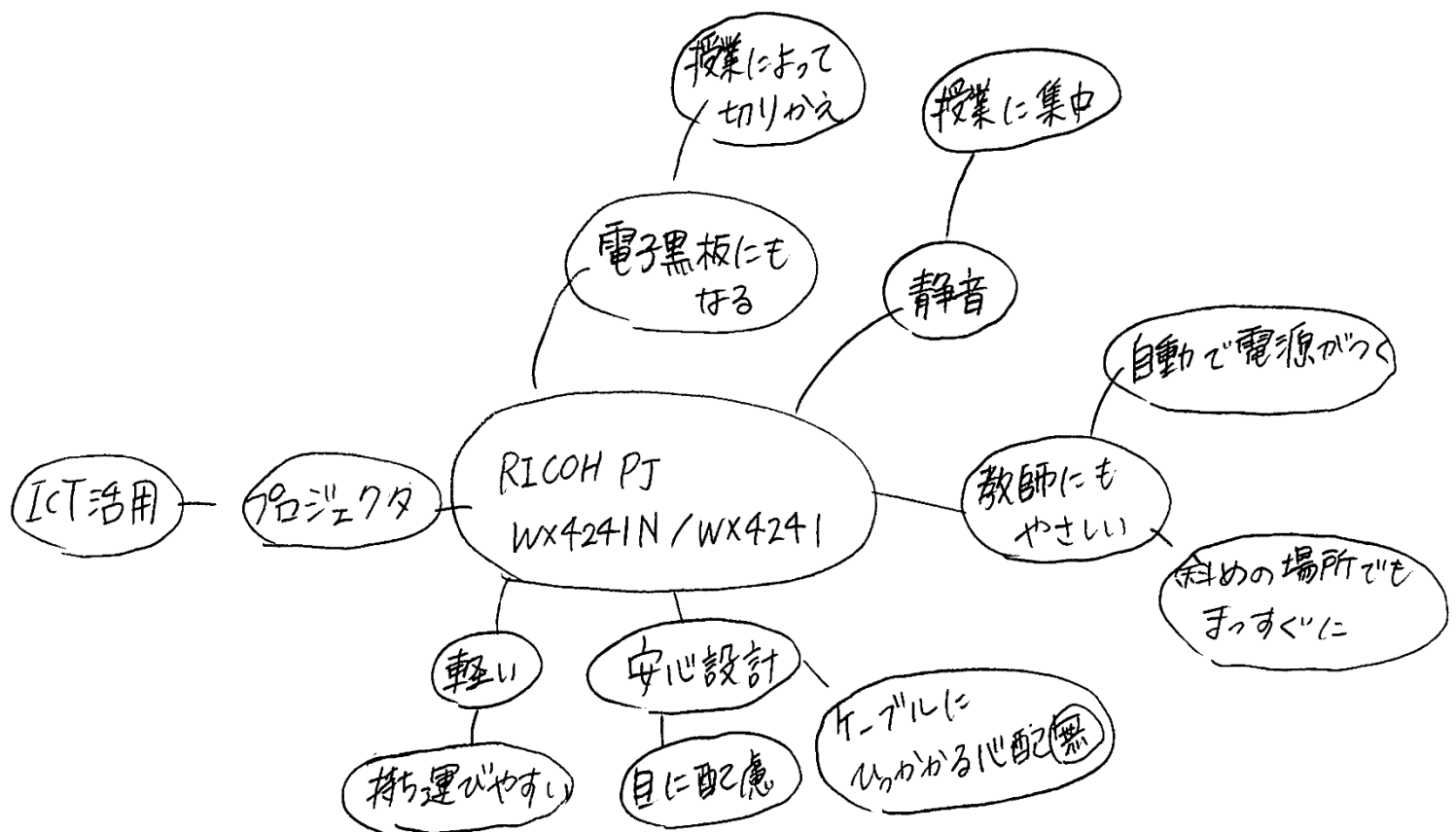
学習内容	指導過程・学習活動	指導上の留意点
ICT 活用場面 ・黒板に投影しても色味を補正 ・短焦点&前面排気で授業に集中できる静音設計 ・小型で軽い	ICT 活用の手順 ○授業前のわずかな時間で設定完了。 ・機器をつなぐだけで電源が自動でつく。 ・教卓においてそのまま投影でき、斜めにしても「横台形補正機能」によりまっすぐに調整。 ⇒IT 機会が苦手な先生でも簡単に使うことができる ○子供たちのことを考えた安心設計 ・曇りの日などまわりが暗いときには眩しさを低減する ・ケーブルをつなぐ入出力端子をレンズ側(黒板側)に配置 ⇒子ども達の目に優しく、ケーブルに足を引っ掛けてつまずいたりする心配がない ○電子黒板機能 オプションの電子ペンと専用ソフトを利用すれば、簡単に電子黒板にかえることができる。重要な個所を書き込むことができる ⇒生徒が飽きない	○ 安心安全だからといって教室に放置はしない
備考 使用教科書 「・・・」(〇〇社) 準備物 ・・・・RICOH PJ WX4241N/WX4241 授業形態と工夫 ・・・・		

5. 出典・参考等

- ・プロジェクタ RICOH PJ WX4241N/WX4241

https://www.ricoh.co.jp/projector/special/shortthrow/?lfcpid=28&sscd=st&utm_source=yahoo&utm_medium=cpc&utm_campaign=PJS_st&yclid=YSS.1000372179.EA1aIQobChMIIfbLiJz37A1VWcEWBR3FyQXSEAAiAAEgJHPPD_BwE

・
・



ICT活用例

ICT 活用例

3 班

1. 単 元

英語(中 1 の 3 学期、中 2 の 1 学期)

2. テーマ

- ・外国人の先生と会話をする。
- ・英語を使ってプレゼンテーションをする

3. ICT 活用のねらい

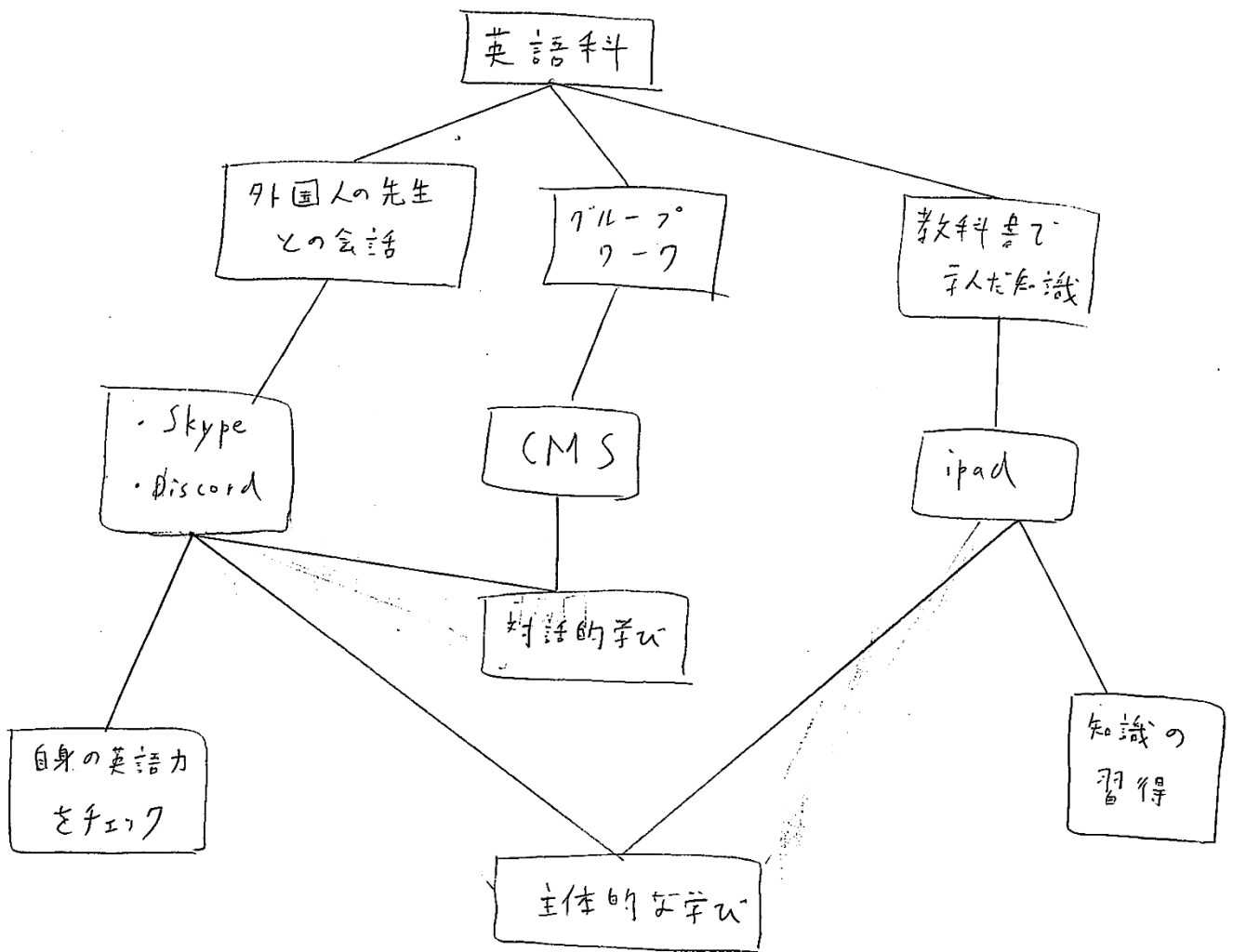
・デジタル教材、Skype などを組み合わせて、グループ活動を中心に、「聞く」「話す」「読む」「書く」の英語の 4 技能の向上を目指す。

4. ICT 活用例

学習内容	指導過程・学習活動	指導上の留意点
ICT 活用の場面	ICT 活用の手順 ○1 時間目(中 1 の 3 学期) ・グループで質問を考える、リハーサルを行う ★意味やスペルがわからないものは iPad で調べても良い ○2 時間目 ・1 時間目で考えた質問をもとに、インタビューを行う ★Skype を使用 ○別の時間(中 2 の 1 学期) (・教師が英語でプレゼンを行う) ・教科書で扱った「環境問題」について、英語のプレゼンテーションを作成。 ・外国人の先生にプレゼンを聞いてもらい、英語、内容についてのアドバイスを受け、手直しを受けて完成させる。 ★Skype を使用 ★ロイロノートの生徒間通信を使って、スライドをグループ内で共有しながらプレゼンを仕上げる	○一年間のまとめとして学んだものを使う。直接出身国を聞く質問は NG、質問は順番に行わせる。 ●主体的な学び ○予期しない回答や展開に進展した場合、生徒に解決させる。 ●課題解決能力の向上 ○ロイロノートの生徒間通信は普段はロック状態であるため、一時的に解除する必要がある。 ●協働的な学び
備考 使用教科書 ……任意 準備物 ……タブレット(ロイロノート、Skype の導入)、Speak It!(自作英文の発音練習用)、CMS(コンテンツ管理、プレゼン発表英文の共有) 授業形態と工夫 ……タブレット PC、アプリ、CMS の組み合わせで生徒の主体的な学びを活発にする。教科書で学んだ単元の理解をより深める。		

5. 出典・参考等

・https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsdtp/4/0/4_21/_pdf/-char/ja 「ICT を活用した英語のアクティブ・ラーニング」(2020/11/10 確認)



確認問題06

教育方法論 m

第6回

確認問題 06

(1) 相対評価から目標に準拠した評価に転換した意義を4つ挙げよ。

1. 「学力保障」論の立場に立つ
2. 共通の目標に到達することがめざされることから、学習における共同の条件が生まれる。
3. 学力内容としての「到達目標」を評価規準とすることによって、どのような学力を形成されたのか明らかにすることができる。
4. 評価結果をふまえて教師の教育活動の反省と子どもたちの学習援助を通じて、学力の保障をはかる。

(2) 次の、自己評価の重要性に関する文の、空欄を埋めよ。

自己評価とは（子どもたち）が自分で自分の人となりや学習の（到達状況）や学習の（過程）を評価することをさす。またそれによって得た（情報）によって、今後の学習や行動を（調整）することにもつながる。自己評価能力は、メタ認知とか（モニタリング）とも言われる。このメタ認知は、「メタ認知的（知識）」と「メタ認知的（活動）」に区分される。この自己評価能力の（形成）が（生涯学習）社会の到来と相まって着目されている。

(3) 「パフォーマンス評価について、簡潔に説明せよ。

子どもたちが知識と
実際の世界にどの程度
うまく活用させているのか
測るもの。

(4) 「構成主義的な学習観」「形成的評価の機能」「ルーブリック」のうち1つについて簡潔に説明せよ。

「構成主義的な学習観」

… 学習することは、知識を量的に蓄積することではなく、環境とのなかで相互作用しながら、自分の経験に関する意味を再構成しつつ、学ぶことである。

**) 確認問題 02 を自己評価し、

気づいたこと、感じたことをのべよ

■ 5段階自己評価（ 2 ）

■ 相対評価のように、子どもたちが「目標」にどの程度到達しているのかを確認するだけでなく、「次はどうするか」や振り返りをすべきだなと思った。だから、目標に準拠した評価に転換して良かったなと思った。

